

「第3次大野城市子ども読書活動推進計画」 概要版

計画策定のポイント

●「読書環境づくり」「人材の育成」「連携・協力の体制作り」の3つの柱

第2次計画の目標「読書環境づくり」「連携・協力の体制づくり」は継続目標とし、加えて、子ども読書活動を支援する人材の重要性に鑑み、「人材の育成」を柱に掲げました。

●第2次計画の取り組みを見直し、現状や課題に応じて統廃合・新設

第2次計画に示した取り組みの成果と課題を個別に整理し、今後5年間で必要な取り組みへと統廃合・新設しました。

●推進主体ごとに重点となる取り組みと個別目標を設定

現状と課題に応じて、これまでの目標等を見直し、重点となる取り組みとそれに関連する個別目標を推進主体ごとに1つずつ決めました。

1. 子ども読書活動の背景と意義

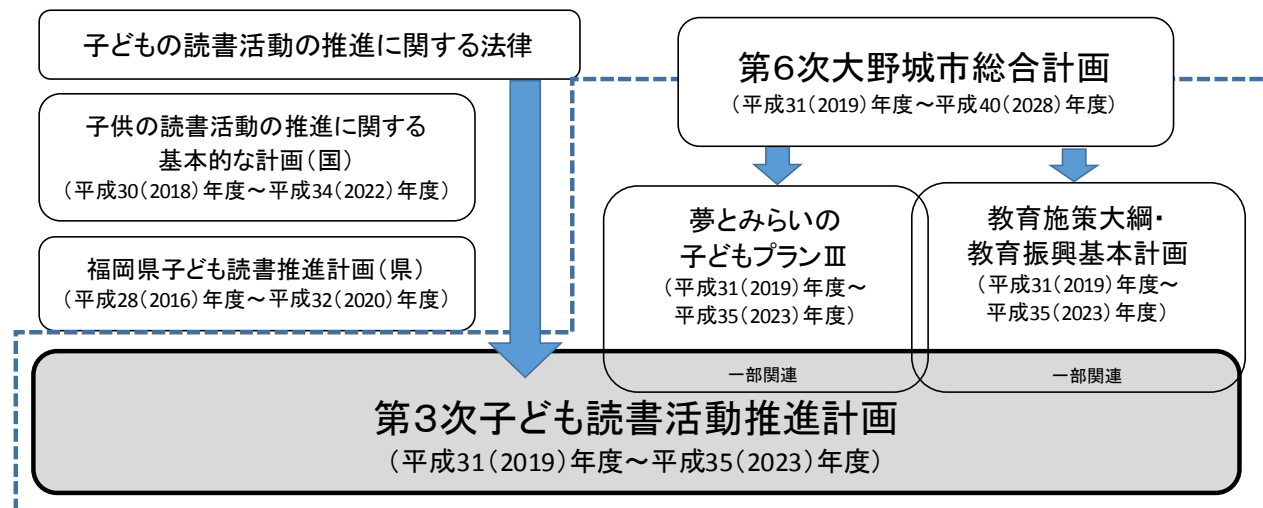
メディアの普及やグローバル化等により急速に変化する時代において、子どもにとっての読書活動は、社会で生きるために必要な読解力、想像力、思考力、表現力等を育み、心を豊かにし、自己を形成する重要な礎となります。

また、読書を通じてコミュニケーションをとったり、感受性や道徳心を身に付けたりすることは、思いやりや生きる喜びを見出し、他者と共に豊かに生きるために必要です。

すべての子どもが各ライフステージで本にふれ、主体的に読書活動を行うことができるよう、本計画をもって家庭・学校・地域・行政が役割に応じた取り組みを推進します。

2. 計画の位置付け

「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく計画で、国・県計画とも関連します。また、「第6次総合計画」を最上位計画とし、「夢とみらいの子どもプランⅢ」、「教育施策大綱・教育振興基本計画」の一部実行計画と位置付けます。



3. 計画の期間・対象

【期間】平成31(2019)年度から平成35(2023)年度まで(5年間)

【対象】大野城市に在住・在学する妊婦及び中学生以下の子どもとその保護者

4. 計画のテーマ

心を育み 未来へつなぐ 子ども読書の輪

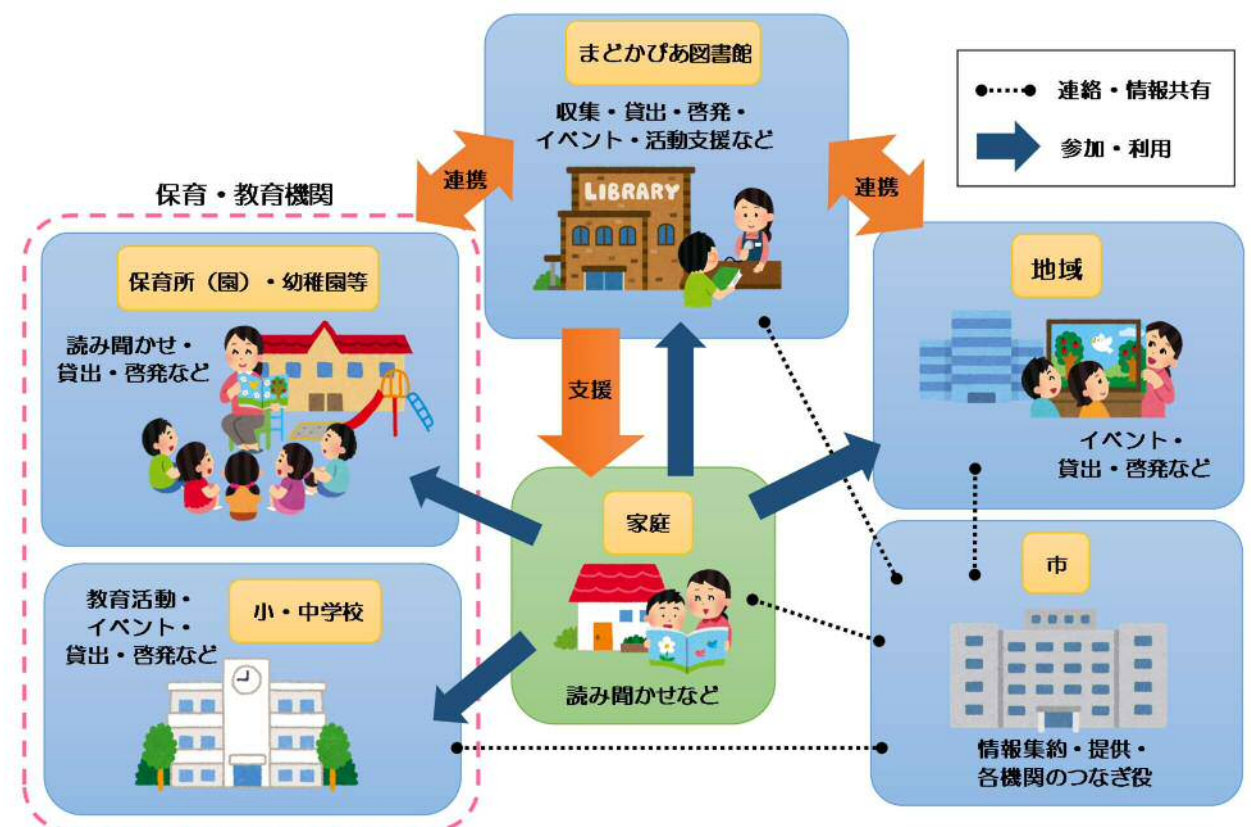
5. 計画の基本目標

- ①子どもたちがさまざまな機会と出会える読書環境づくり
- ②子どもたちの豊かな読書活動を支える人材の育成
- ③家庭、地域、保育所(園)・幼稚園等、小・中学校、まどかぴあ図書館、市が連携・協力する体制づくり

6. 計画の推進体制

【推進主体】◆家庭◆地域◆保育所(園)・幼稚園等◆小・中学校◆まどかぴあ図書館◆市

【推進・進行管理】「大野城市子ども読書活動推進委員会」を核として、計画の進行管理や推進に向けた協議を行います。



7. これまでの取り組みの成果と課題

○…成果 ●…課題

取り組みの主体	成果と課題
家庭	○広報や事業を通じて家庭での読み聞かせを普及啓発。 ○ブックスタートにより家庭での読書のきっかけづくりを推進。 ●忙しさ等から親子での読書の時間は少なくなる傾向があり、家庭での読書のきっかけづくりが必要。
地域	○地域貸出文庫や移動図書館車「わくわく号」を通じて地域住民への読書活動を啓発。 ○コミュニティセンター、子ども情報センター等の図書環境を確保。 ○読書ボランティア活動のPRやニーズに応じた講座を実施。 ●読書ボランティア等の人材の確保と各地域での活動の充実が課題。
保育所（園）・幼稚園等	○まどかびあ図書館の貸し出しや除籍図書を活用し、絵本の充実を図った。 ○保育士・幼稚園教諭による読み聞かせや絵本の貸し出しを実施。 ●今後も家庭への絵本の貸し出しや啓発、図書環境の整備が必要。
小・中学校	○小・中学生ともに1カ月の読書量が5年前から増加。 ○市の基準に基づき各学校で適切に図書を整備。 ○「小学生読書リーダー」を養成し、他の児童等へ読書活動の拡大を図った。 ●学校と関係機関の連携強化、図書環境や司書活動のさらなる充実が課題。
まどかびあ図書館	○図書資料の整備、各種講座、イベント、啓発を継続的に実施。 ○ボランティア団体と連携した事業を実施。また、ボランティア活動の拡大やスキルアップを支援。 ○学校図書館等の関係機関との連携を強化。 ●関係機関・団体とのネットワークを確立し、包含的な読書環境の整備と図書サービスのさらなる充実が課題。
市	○子育てに関する各種事業で、絵本をとおした育児の大切さについて啓発。 ○読書ボランティアとの連携により、読み聞かせを推進。 ●今後も子育て期における本の重要性の啓発と、子どもが幼い頃から本とふれあう機会の創出が必要。
連携	○学校では保護者や地域の読書ボランティアが積極的に参画。 ○「小学生読書リーダー養成講座」をとおして市、まどかびあ図書館、学校の連携体制を推進。 ●「大野城市図書関係機関・団体連絡協議会」を活用し、読書関係ネットワークのさらなる連携強化が必要。

8. 第3次計画（案）の取り組み

取り組みの主体	施策の方向性	重点の取り組み
家庭	①大人と子どもと一緒に読書に親しむ機会の創出 【目標】ブックスタート事業の参加率 ⇒ 対象者の80%以上	ブックスタート事業の推進
地域	①地域で子どもが本とふれあえる環境づくり ②子どもの読書活動を支える地域人材の育成と支援 【目標】地域で行う読み聞かせや子ども向けイベントに参加した人数 ⇒ 年間250人以上	地域での読み聞かせや読書活動の普及
保育所（園）・幼稚園等	①日常的に子どもが絵本や物語に親しむ環境づくり ②大人の意識や技術向上のための啓発と情報提供 【目標】保護者に絵本の紹介を定期的（四半期ごとなど）に行った保育所（園）・幼稚園等の割合 ⇒ 80%以上	絵本の貸し出しや紹介による家庭との連携
小・中学校	①学校図書館等の環境整備と活用の促進 ②学校での特色ある読書活動の推進 ③子どもの読書活動に関わる人材や機関との連携強化 ④子どもの発達段階や特性に応じた読書活動の支援 【目標】小学生読書リーダー養成講座の参加児童及び司書教諭・学校司書等の満足度 ⇒ 90%以上	「小学生読書リーダー」の養成
まどかびあ図書館	①多様なニーズに応じた図書やサービスの充実 ②子どもが読書への愛着を深めるイベントや取り組みの推進 ③学校や地域における読書活動の支援 ④広報活動の活発化 【目標】「おはなし会」の開催回数 ⇒ 年間100回以上	「おはなし会」の充実
市	①子ども・子育て・福祉等関連事業と連携した取り組みの実施 ②子どもの読書活動に関する情報の集約と提供 【目標】読書ボランティアの登録者数 ⇒ 60人以上	読書ボランティア活動の情報集約とPR
連携	①各機関・団体の強みを生かした取り組みとネットワークの活用 【目標】「まどかびあ図書館・小中学校図書館連携部会」の開催 ⇒ 年2回以上	まどかびあ図書館と学校図書館の連携

※取り組みの主体ごとに、重点の取り組みに関連した個別目標を設定